

## 2021年度 児童・少年の健全育成実践的研究助成の選考を終えて

### 児童・少年の健全育成助成選考委員長 服部祥子

創立40周年記念特別事業の一環として、昨年度より公募助成を開始しました児童・少年の健全育成実践的研究助成は、2回目の選考となりました。

当助成では、「子どもを巡る『真のウェルビーイング』の探求」をテーマとし、研究者と実践家が協働して、現場の実践をベースに進める「実践的研究」に対する助成としています。そして、多くの研究者や実践家が応募できるよう、キーワード・キープレーズを示すなかで、2年助成と1年助成の2つのプログラムを設定しています。

#### 1. 応募状況

全国から2年助成24件、1年助成36件、合計60件の応募がありました。

	応募件数	内、第1分野	内、第2分野
2年助成	24	13	11
1年助成	36	22	14
合計	60	35	25

分野別では、教育、予防的対処等を図る第1分野が約6割、療育的対処等を要する第2分野が約4割でした。第1分野では、保育・学校教育・社会教育に関連する申請が約6割、第2分野では心身の発達・健康の問題に関する申請が約5割を占めています。

申請者についてしてみると、教育、保育、社会福祉、医学、看護、心理の分野の研究者の他に工学分野の研究者、さらには行政機関、社会福祉施設等に勤務する専門職と様々な分野の研究者、実践家に渡っています。また1年研究は、大学院博士課程在籍者も助成対象としており、4名の申請がありました。

#### 2. 選考結果

選考委員会では、個々の申請について、研究の意義、研究デザインの妥当性、社会への貢献等から選考を行い、2年助成が3件、1年助成が6件、合計9件が新たに選出されました。分野別では、第1分野が3件、第2分野が6件です。

	採択候補	内、第1分野	内、第2分野
2年助成	3	1	2
1年助成	6	2	4
合計	9	3	6

採択となった研究は、第1分野では、多文化共生に向けた実践や、家具遊具化におけるツール開発、第2分野では、発達障がい児とその保護者の支援や、被災地における子どもの発達実態解明等、どれも課題性の高いテーマです。

1年助成については、2名の大学院博士課程在籍者が採択され、今後の活躍が期待される所です。また、2年研究については、書籍出版へとつながることを大いに期待しています。